

1. 評価報告概要表

作成日 平成 21年 2月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	1072900457
法人名	特定非営利活動法人サポートハウスよるこび
事業所名	グループホームほたるの里
所在地	太田市新田大根町259-5 (電話) 0276-57-0778

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(平成20年 12月 17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人	常勤換算 6.1人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 9,000円/月
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
又は、1日1,500円			

(4)利用者の概要(12月 17日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	72歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	新田診療所・宏愛会第一病院・東邦病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地の中に去年グループホームがもつ1ユニット建てられ2ユニットとなり、アイサービスも隣接していて、なかで行き来できるようになっている。ホームの前は「ほたるの里公園」になっていて静かな環境の中に建てられている。理事長は毎日必ずホームに顔を出して、入居者1人ひとりの手をとり挨拶をかわし、スキンシップをはかっている。開設当所からお世話になった地域の方々に恩返ししたいという気持ちがあり、特に地域との交流には力を注いでいる。全職員がホームの理念を理解し、毎日唱和してケアに対する意識を高めている。地域住民との交流は活発で、幼稚園、中学生ボランティアの訪問、また、ホーム夏祭りには、たくさんの近隣住民の参加がある。職員と入居者そして家族、地域住民が協力し交流をもちながら、入居者が生き生き生活できるよう日々のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、週に2~3回行政を訪問し、サービスの向上に向けて担当者と話し合っている。入居者だけではなく、地域の高齢者福祉に対する協力体制が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員と共にホームのケアを振り返り、話し合われて記載されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの日常的生活や行事などの様子を報告している。また、災害時対策が話し合われ、地域で暮らす独居高齢者支援についても話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居時とそれ以降も事あるごとに、意見・苦情の申し出方法を説明している。その他、玄関に意見・苦情申し出に関する説明書が掲示され、カウンターに意見箱を設置している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣組の特別組合員になり、地域住民としての付き合いが行われている。入居者は、老人会や地域の行事に参加し、ホームの行事には地域の方の参加がある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく尊厳を保って生活できるように支援する」というホームの理念は、職員の話し合いで作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝の交替申し送り時に、その日の職員全員で理念を斉唱している。また、ケアカンファレンスやミーティング時に理念について話し合い、具体的ケアについて意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組の特別組合員になって、老人会やお祭りなど地域活動に積極的に参加している。地域の保育園や中学生ボランティアとの交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、ホームの自己評価は、職員の話し合いで作成している。例年、外部評価の結果後に、職員で話し合い課題解決に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、行政、地域から民生委員や区長、職員などの参加のもとで、2ヶ月に1回開催されており、話し合われた内容はサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、週に2～3回行政を訪問し、ホームのサービスの向上に向けて担当者と話し合っている。また、生活保護の方の受け入れ依頼、講演会への参加依頼、近くの高校へ2級ヘルパー講師の依頼等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事の時や普段の生活の様子をたくさん取り入れたホーム便りを隔月に作成し、家族に配布している。また、家族の面会時を利用して詳しく報告している。体調不良時や何かあったときは、随時報告している。金銭管理は出納帳で確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し出方法は、入居時それ以降も家族に繰り返し説明している。また、家族の面会時にコミュニケーションを図り、ニーズの把握に努めている。玄関には、意見・苦情申し出に関する説明書が掲示され、カウンターに意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の異動は無く、入居者と職員は馴染みの関係が形成されている。職員の異動、離職の際の引継ぎには十分時間をかけ、挨拶からはじまり徐々に慣れてもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修・学習機会をとらえ、職員は交替で参加している。学んだ事はミーティングなどで報告され、情報の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、コミュニケーションを図り、職員の交換研修や勉強会に積極的に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、本人や家族の見学を積極的に受け入れ、また、デイサービスを利用してもらい馴染んでから入所するように入所計画を立てている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人や家族から入居者の情報を収集し、センター方式でアセスメントしてニーズの把握に努めている。職員は、入居者から料理や園芸など教えてもらい、共に生活する関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でアセスメントして、ニーズの把握に努めている。言語的コミュニケーションが困難な入居者のニーズについても、職員間の成功例を参考にして意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに受け持ち職員がおり、入居者の代弁者としてケアプラン作成時には、意見を言っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が無くとも、3ヶ月に1回の介護計画の見直しを行っている。状況の変化がある場合は、随時計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されたデイサービス利用者と一緒にレクリエーションや行事を楽しむ機会が多く企画・実施されている。運営推進会議を通じて、災害時のホーム機能の提供を地域に伝えている。家族が都合の悪いときの通院や入居者が入院中の洗濯、買物等家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりのかかりつけ医への受診支援を行っている。夜間でも応じてくれるホームの協力医院があり、緊急時の安心を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケアについては、入居時に家族に確認している。入居者の希望があれば対応できる体制があり、ホームで看取りのケースがある。職員全員が共通認識を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護についてのマニュアルがあり、勉強会を行い、職員の意思統一を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの好みの生活を把握し、その方に合ったペースで生活できるように支援している。レクリエーションの参加や入浴、昼寝、テレビを観る等本人の意思を尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりに役割があり、できることにさりげなく誘って一緒に準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。必要な入居者には、2人介助で対応している。ゆずを入れたり、入浴剤を入れる等香りを楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月2回水彩画教室を開催し、デイサービスの利用者共々楽しんでいる。外出や外食の機会を間を空けることなく企画し、気晴らしの支援をしている。日々の生活ではそれぞれできることがアセスメントされ、入居者は一人ひとり役割をもっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの隣には公園があり、日々の散歩に利用している。その他、買い物や外食、ドライブなど外出機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは、日中鍵をかけていない。一人で戸外に出る入居者がいるが、見守りを十分して危険が無いように対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練や通報訓練を実施している。運営推進会議において災害対策を話し合っており、地域に協力依頼を行っている。また、災害時には、必要があればホーム施設を地域に開放する用意がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が、栄養バランスを考えて毎日の食事を考えている。食事は一人ひとりの状態に合わせ、刻みやミキサー食を準備している。摂取量は観察して記録され、飲み物は希望に応じて準備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間などの共有空間は、車いすでも無理なく移動でき、介助できるスペースがある。ソファが多数用意され、入居者はそのときの気分でホームのいたるところでくつろぐことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は、居室に自宅で使い慣れたもの持参して設置している。壁には水彩画教室で描いた絵画が貼られ、家族の写真が飾られ、その人らしく工夫されている。		